

令和二年度 推薦入学試験

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、表紙を含めて8ページあります。また解答用紙2枚と下書き用紙2枚が配付されています。また試験中に問題冊子や解答用紙、下書き用紙の印刷不鮮明、ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入しなさい。
 - (1) 受験番号欄
 - (2) 氏名欄
- 4 氏名、受験番号が正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。
- 5 試験終了後、問題冊子、下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

第1章 認知症のひとの「会話」を取り戻す

(1)「CANDY(キャンディ)」で、日常会話からその人を知る

① 認知症になると、会話がすれ違っていく

あなたは、お年寄りと会話をしたことがあるでしょうか？ ご両親でも、親戚のおじさんおばさんでも、近所のご老人でも結構です。その際に、なんとなく「話が噛み合わないなあ」と思ったことはありませんか。たとえば、こんな風にです。

A：ご機嫌いかがですか？

B：うちの孫がこの前結婚してね、もうすぐ子どもも生まれるの。ひ孫が生まれるんだよ。あなたはお子さんいるの？

A：はい、1人います。2歳の女の子です。

B：ああ、それはいい。かわいいでしょ。

へしばらくBさんの家族の話

B：あなたのところは、子どもが1人いるって言ってたね、まだ小さいんでしょ。保育所、学校？

A：保育所ですよ、2歳なので。

B：ああ、2歳って言ったのかな。かわいい時期だね。もうしゃべるの？

A：けっこうしゃべっていますよ。まだはつきり聞き取れない言葉もありますけど。

B：その頃がかわいいときだよ。男の子だったかな、女の子だったかな。

A：女の子です。

B：それはいいね。女の子はよくしゃべってくれるから。

Aさんは介護職員、Bさんは80代の女性です。

2歳の女の子が1人いる」というAさんの返事を、Bさんはよく覚えていません。そこで、さりげなく会話の中に質問を紛れ込ませて、記憶を補っています。ぼんやり話していると、なんとなく「話が噛み合っていない」と思うだけかもしれないが、注意深く聞くと

(ア)

という、認知症の人の会話の特徴が現れていることがわかります。

じつは、これから述べる「日常会話式認知機能評価 CANDY」(日常会話によって認知機

能を評価する方法)では、Bさんは30点中21点でした。「CANDY」は6点以上が認知症の疑いありで、点数が高くなるほど重いため、Bさんは認知症がかなり進んでいる可能性があるのです。

もう一つ例を挙げましょう。Aさんは介護職員、Cさんは90代の女性です。

A：農業をしていらしたんですか。どんなものを育てていらっしゃいましたか？

C：そうねえ、わりとなんでも。

A：主に野菜ですか？

C：野菜はだいたいなんでもあったわね。

A：いくつか具体的に教えていただけませんか？

C：いくつかって……。種類が多いからねえ。

A：たとえばですけど、大根とか、名前を挙げてもらえませんか？

C：うんうん、大根も作ったね。大根と……。それ以外にもだいたいの野菜は作った。

A：赤い野菜はありましたか？

C：赤い野菜、赤い野菜……。あるにはありましたよ。あったけど、すぐに言われても

だいぶ前のことだから、すぐには思い浮かばないわ。でも、赤いのも青いのもいろいろあったには違いがないわね。学校から帰ったら、すぐに親が田んぼ手伝えて言うでしょ。収穫したものを洗ったり、干したり、とにかく暇なんかなかったわよね。

Aさんは、どんな野菜を作っていたか、ヒントを出しながらその種類を何度も尋ねますが、

Cさんは答えることができません。

会話のこの部分だけを見ると、Cさんの方がBさんよりも重度のように思えますが、Cさんは「CANDY」が19点で、21点のBさんよりもほんの少し軽いという結果でした。

「CANDY」は、ここに記した会話だけで認知症かどうかを評価するわけではなく、30分程度の会話をしてから評価しますから、会話のほかの部分では、Bさんの方が噛み合わない点が多かったのでしょう。

またCさんは、認知症かどうかを見るためによく使われるテスト「MMSE (Mini Mental State Examination)」では、「認知症ではない」範囲にギリギリですが入っていましたし、問題となる行動などありませんでした。そのため介護の現場では、認知症だとは思われていなかったのです。

ところが、先に記した通り、会話がスムーズにできないのは明らかですし、「CANDY」の結果も19点ですから、認知症が進んでいると考えられます。

なんとなく「会話が噛み合わないなあ」と思っているだけで、それが認知症によるものだと

周囲が気づかないと、適切なサポートをすることができません。その結果、認知症の人の生活の障がいや孤独感が、どんどん大きくなってしまいます。

けれども、「CANDY」によって、認知症の疑いがあることや、その人の会話の特徴がわかれば、よりスムーズにコミュニケーションを取れるようになり、生活の障がいや孤独感の改善につながります。

たとえばBさんの場合は、一度に伝える情報を1つにして、会話の間、それを覚えていられるようにしました。「あなたはお子さんいるの？」と尋ねられたら、「1人います。2歳の女の子です」と、一度に3つの情報を伝えるのではなく、「1人います」と答えるのです。そうすることで、会話がスムーズに続くようになりました。

Cさんの場合は、何かを思い出してもらおうとすると、うまく思い出せないために、会話への意欲が低下してしまいます。

そこで、

（イ）

すると、

意見や感想を自分から述べて、会話を楽しめるようになりました。

② 「CANDY」とは何か——「会話」によって認知機能を評価する

「CANDY (Conversational Assessment of Neurocognitive Dysfunction : キャンズイ)」は、2016年に私たちの研究グループが開発した、日常会話によって認知機能を評価する方法（尺度）です。

なぜ日常会話に注目したかという点、認知症になると会話がうまくできなくなっていくからです。具体的には、尋ねられても正確なことが思い出せない、詳細が不明瞭、反応が遅い、質問の表面的な意味だけを捉えて答える、等々の特徴が現れてくるのです。

(中略)

さらに、認知症の状態は変化します。徐々に進行して重くなっていくのが一般的ですが、進行の仕方や現れる症状は人によって異なります。しかし、いったん認知症と診断されると、認知機能検査を再び受けることはほとんどありません。

そのため、認知症の人の能力を実際よりも高く評価したり、低く評価したりしてしまうことがよくあります。つまり周囲は、その人の今の認知機能がどのような状態かを正確に把握しないうまま、接したり介護したりしていることが多いのです。

このような状況に陥ることなく、今のその人に合った接し方や援助をするには、認知症の状態をきちんと把握する必要があります。また認知症による生活の障がいや孤独を緩和するには相手の心に目を向け、思いを知る必要があります。

そのための重要な手がかりが会話であり、会話によって認知症の人を知るための、そして会話を増やすためのツールが、「CANDY」なのです。

③「CANDY」の使い方と評価法

では、実際にどのように「CANDY」を使うかを、ご紹介しましょう。「CANDY」は、経験の浅い介護職員や家族でも使えて、評価される人の負担にもならないように作られています。

左の表に示した、認知症になるとよく見られる会話の特徴15項目をチェックすることで、認知機能を評価します（表1「日常会話式認知機能評価 CANDY」）。

認知症の人が身近にいる人は、「そういえばこんな感じだ」と、思い当たることがあるのではないのでしょうか。15項目それぞれの特徴をチェックするために、具体的にどのような会話をすればいいかは、次項④（中略のなか）で述べます。

15項目をチェックするための会話は、30分以上かけて行います。あまり短い時間では、会話の特徴を把握するのが難しいからです。

ただし、一気に15項目すべてをチェックする必要はなく、複数回に分けて行ってもかまいません。その場合は、複数回の会話の合計が30分以上になれば結構です。

また、評価する人が、対象となる人と日常的によく会話を交わしている場合は、日頃の会話の印象で評価してもかまいません。

表1-1 「日常会話式認知機能評価 CANDY（キャンディ）」

* 評価は30分以上の会話を想定して行ってください。 複数回の会話時間の合計が30分以上でも構いません。			まったく見られない	見られることがある	よく見られる
頻度の目安 見られることがある・・・1～2回、もしくは注意深く聞くと気づくことがある よく見られる・・・3回以上もしくは会話するたびに見られる、この特徴のために、会話の流れが頻繁に途切れる					
項目番号	分類番号	評価項目			
1	1-1	会話中に同じことを繰り返し質問してくる（物忘れの有無や程度の評価）	0	1	2
2	1-2	話している相手に対する理解が曖昧である（人物の認識の評価）	0	1	2
3	1-3	どのような話をしてもしも関心を示さない（物事への関心の評価）	0	1	2
4	2-1	会話の内容に広がりが無い（思考の生産性や柔軟性評価）	0	1	2
5	2-2	質問をしても答えられず、ごまかしたり、はぐらかしたりする（取り繕いの有無や程度の評価）	0	1	2
6	2-3	話が続かない（注意の持続力の評価）	0	1	2
7	3-1	話を早く終わらせたいような印象を受ける（会話に対する意欲の評価）	0	1	2
8	3-2	会話の内容が漠然としていて具体性がない（会話の表現力の評価）	0	1	2
9	3-3	平易な言葉に言い換えて話さないと伝わらないことがある（言葉の意味理解の評価）	0	1	2
10	4-1	話がまわりくどい（論理的に話をする力の評価）	0	1	2
11	4-2	最近の時事ニュースの話題を理解していない（社会的な出来事の記憶や関心の有無の評価）	0	1	2
12	4-3	今の時間（時刻）や日付、季節などがわかっていない（時間の流れの理解の評価）	0	1	2
13	5-1	先の予定がわからない（予定に関する記憶の評価）	0	1	2
14	5-2	会話量に比べて情報量が少ない（語彙力や言葉の検索能力の評価）	0	1	2
15	5-3	話がどんどんそれて、違う話になってしまう（話の内容を整理する力の評価）	0	1	2
合計得点					

(中略)

判定は、15項目の合計点が、6点以上の場合に、認知症の疑いがあるとなります。

「CANDY」はスクリーニング（ふるい分け）テストですから、診断を確定するには、画像検査も含めた専門医による詳しい検査が必要です。

また、「CANDY」は1回実施したら終わりではなく、3か月から半年に1回ぐらいつつ、定期的に実施してください。合計点の変化によって、認知機能がどの程度変化したかがわかります。

さらに、どの項目の点数が増えたかを見ることで、会話の特徴や症状がどう変わったかがわかります。過去の状態ではなく、今の状態を把握することで、その人に本当に適した会話や援助ができるのです。

(中略)

(2) なぜ「CANDY」が必要だったのか

① 人は知能を試されると、プライドが傷つく

ここで、私たちがなぜ「CANDY」（日常会話によって認知機能を評価する方法）を作ったか、その理由を少し補足しておきましょう。

現在、認知症のスクリーニング（ふるい分け）検査には、「MMSE」や「長谷川式認知症スケール」などが使われています。

「今日の日付は?」「100から7を引いてください。それから7を引くと?」「3つの言葉を言いますので、言ってみてください。あとで聞くので覚えておいてください」といった検査項目を、見たり聞いたりしたことのある人もいるでしょう。

これらの検査は、高い信頼性や妥当性のあることが検証されていますが、問題もあります。それは、問いに正解・不正解があり、能力を試されていることがはっきりわかることです。

そのため、検査そのものへの抵抗感や、正解できないことによる自尊心の低下、それらに伴う検査者への否定的な感情などが起こり、中には検査を拒否したり、怒り出したりする人もいます。

認知機能検査に対する苦痛の度合いの調査では、認知症の人の場合、重度の苦痛のある人が17パーセント、中等度の苦痛のある人が23パーセント、軽度の苦痛のある人が30パーセント。合計すると70パーセントの人が、「苦痛がある」と答えているのです（図省略）。

(5)

同様の認知機能検査は、運転免許の更新時にも行われています。

2017年に道路交通法が一部改正され、75歳以上のドライバーは全員、運転免許更新時に認知機能検査を受けることになったためです。その日の日付や時刻を答えたり、絵を見て記憶し、あとでなんの絵だったかを答える、といった内容です。この検査で、「認知症のおそれがある」という結果が出た人は、後日医師による検査・診断を受けなければなりません。

これを受けて医療界では、「いきなり大勢の高齢者が専門医に診断を受けに来たら、きちんと対応できるのか」との危機感がありました。

ところが、心配したような事態には至りませんでした。というのも、実際には運転免許の書き換えをせずに、返納した人がかなり多かったようなのです。

この話をすると、大多数の人は「返納者が増えてよかった」と言います。あなたは、どう思いますか？

たしかに、ブレーキとアクセルの踏み間違いによる死亡事故など、認知症の人による重大事故を受けて、これまでさまざまな返納対策がとられました。効果が上がりませんでした。返納者が増えたのは、事故を防ぐという意味ではいいことでしょう。

けれども、なぜ、返納者が増えたのでしょうか。これまで頑^{がん}として返納を受け付けなかった人が、なぜ返納したのでしょうか？

その理由は、認知機能検査の結果が悪かった場合には、必ず医師の診断を受けなければならぬという、そのことが苦痛だったからではないでしょうか。中には専門医には診てもらわないで、かかりつけ医に相談した人も多かったようです。

免許更新時に傷ついたプライドが、専門医の診断によってさらに傷つき、ズタズタになってしまふ。そんな事態を避けたいと思う気持ちは想像がつかます。あるいは家族が、受診に二の足を踏む本人を見て、チャンスとばかりに返納を勧める、といったケースもあったかもしれません。いずれにせよ、自分のプライドを守るために運転を諦めたとしたら、それは喜ぶべきことなのでしょう。

自動車は、一人きりになれる場所であり、誰かと一緒に乗れば、その人よりも親密になれる場所でもあります。さらに、自分の意思でどこでも行けるといふ、自由の象徴でもあります。長年運転してきた人にとって自動車は、単なる移動手段ではないのです。

もちろん、危険な運転を放置していいというわけではありません。しかし、特別な存在である自動車を、ギリギリのところまでプライドを守るために、諦めざるを得なかった人がいることに、思いを馳^はせてほしいのです。

(佐藤眞一、『認知症の人の心の中はどうなっているのか?』、光文社新書、二〇一八年より抜粋、一部改変)

問1 空欄(ア)には、Bさんの会話の特徴が示されます。前後の文がつながるよう推察して20字以内で述べなさい。

問2 空欄(イ)には、Cさんとの会話の特徴から著者が望ましい対応(会話方法)について述べています。前後の文がつながるよう推察して80字以内で述べなさい。

問3 著者は、既存の認知症のスクリーニング検査(「MMSE」や「長谷川式認知症スケール」)ではなく、新たに「CANDY」を作成しています。既存の検査と比較し、「CANDY」が優れていると考えられる点を150字以内で述べなさい。

問4 傍線部(ウ)以降において、75歳以上のドライバーの運転免許更新時の認知機能検査について、さらには高齢ドライバーにとっての自動車の位置づけが述べられています。

高齢者の運転免許更新時の認知機能検査ならびに高齢者の自動車運転について、あなたはどのように考えますか? 本文を参考に自分の考えを600字以内で述べなさい。

正解例と採点のポイント

問1

出題の狙い…本文中に書かれている会話より、会話の特徴をつかみ適切な文章にまとめることが出来るか否かが出題の狙いです。

解答のポイント…会話の特徴をとらえることであるので、正答は二人の会話のやり取りにおける特徴が示されなくてはいけない。「Cさんが〇〇したことをBさんは〇〇する」といった内容を表す解答が望ましく、「Bさんは〇〇する」といった解答は不十分。

正答例

- 「一度聞いたことを何度も質問してくる」
- 「一度伝えたことを再び尋ねてくる」
- 「一度説明したことを何度も聞いてくる」

など

問2

出題の狙い…本文中に書かれている会話より、会話の特徴をつかみ、またその結果が書かれている文章より適切な対応方法を考え、文章にまとめることが出来るか否かが出題の狙いです。

解答のポイント…Cさんの会話の特徴は①「何かを思い出ししてもらおうとすると、うまく思い出せないために、会話への意欲が低下しています。」とあり(記憶障害)が予測される。続いて②「すると、意見や感想を自分から述べて、会話を楽しめるようになりました。」とあり、望ましい対応の後には会話に意欲的になったことが伺える。つまり①記憶障害に対する対応ならびに②自発的な会話を促す対応が望ましい解答となる。

正答例

「こちらからCさんの覚えていそうな最近の日常生活での話題を多く取り入れたり、興味のあるような趣味に関する話題を取り入れたりしながらの会話になるように工夫しました」

問3

出題の狙い…本文中からCANDY(評価指標)の特徴と既存の評価指標の特徴をつかみ、CANDYの既存の評価指標に対する優位性を適切にまとめ文章にすることが出来るか否かが出題の狙いです。

解答のポイント…①日常会話で評価が可能であること、②回答に正解・不正解がないこと、③

評価を日常生活の会話に活かすことが出来るという特徴が本文中に示されているので、これら3つのポイントが解答に述べられていることが必要。

正答例

「日常会話で評価がなされるので特別に時間を設ける必要がなく、いつでも評価が可能である。また正解・不正解がないため、検査をされる側には苦痛は無く、検査をする側にも心理的な負担が少ない。さらに評価された結果を日常生活の援助や会話に活かすことが可能であり、会話を増やすためのツールとしても用いることが出来る。」

問4

出題の狙い…本文を読み、このような課題について身近な問題として捉え、自身の考えを述べることが出来るか否かが出題の狙いです。

解答のポイント…①75歳以上のドライバーの免許更新時に課される認知機能検査、②高齢者の自動車運転についての2つのポイントを、本文を参考に自分の意見を加え適切な内容で記載されていることを重視する。